

こんにちは!

村立東海病院です



知っておきたい! 「胃がん」と「大腸がん」のこと

現在、がんの中で日本人に一番多くみられる「胃がん」と「大腸がん」。これらは検診や検査での早期発見と早期治療が大切です。今回は、当院の胃カメラ検査・便潜血検査の受診状況を踏まえながら、胃がんと大腸がんについて紹介します。

胃がんの原因の多くは「ピロリ菌」

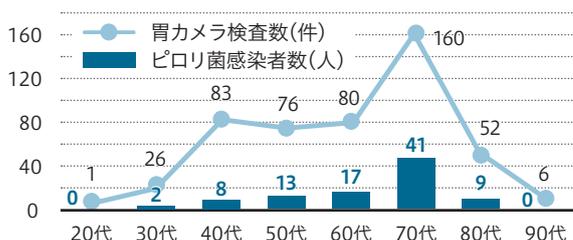
胃がんの原因の一つとして、約40年前にオーストラリアのウォレン博士が発見した「ピロリ菌」(ヘリコバクター・ピロリ)が広く知られています。ピロリ菌は幼少期に感染することが多く、母親からの感染が約70パーセント、その他の家族からの感染が約10パーセント、ほかに環境や集団生活も感染の原因とされています。

【胃カメラ検査】を受け、ピロリ菌を除去しましょう

当院では昨年、20代から90代までの方(3か月間の合計484人)に胃カメラ検査を行い、90人のピロリ菌感染者の除菌治療を行いました。このうち4人の方は胃がんが見つかり、手術となりました。

“胃がんの方の99パーセントはピロリ菌に感染している”というデータもあります。胃の不調を感じている方は、まずは胃カメラ検査を受け、ピロリ菌を除去することが大切です。

【グラフ 年代別胃カメラ検査数とピロリ菌感染者数】



ピロリ菌感染者のほとんどに、胃が痛い等の慢性胃炎の症状があります。除菌後もこの症状が修復されるまでの10年以上は、胃がんリスクが非感染者の約10倍といわれており、年に1度、胃カメラ検査を受けることが大切です。



大腸がんの原因となる「ポリープ」

大腸ポリープは、40代からできる人が増え、60代では2人に1人が持っているといわれています。ポリープには、腺腫(隆起型)とDeNovo(平坦型)があります。ポリープががんになるには、5年以上の年月がかかりますが、DeNovoタイプは1年ほどで急速にがんになり増大することがあります。ポリープを取れば安心というわけではなく、状況により1~2年で再検査が必要となる場合があります。

【毎年受けていますか? 「便潜血検査」】

右下の図は、当院の大腸がん検診(便潜血検査)受診者1万人中、がんが見つかった方の割合です。便潜血が陽性だった方の約3パーセントに大腸がんが見つっています。早期発見のためには、便潜血検査を受けることが大切です。

【図 大腸がんが見つかった方の割合】



大腸がんの方の約30パーセントは、便潜血検査が陰性です。「やや太り気味」「肉やハム類が大好き」「親族が大腸がんである」等の方は、大腸がんのリスクが高いとされています。検査結果が陰性の方でも、一度は大腸カメラ検査を受けてみることをお勧めします。



村立東海病院 内科医師 佐藤 匡美

【問い合わせ】村立東海病院(☎282-2188)、福祉総務課地域医療担当(☎287-0848)